

平成28年2月26日

加西市議会議長 三宅 利弘 様

議会運営委員長 森元 清蔵



議会運営委員会視察報告書

下記のとおり視察を実施しましたので報告いたします。

記

1. 日 程 平成28年2月16日(火)～17日(水)
2. 視察先 岐阜県可児市議会、三重県亀山市議会
3. 参加者 森元清蔵、井上芳弘、衣笠利則、土本昌幸、長田謙一、松尾幸宏、森田博美、三宅利弘(議長)、後藤光彦(議会事務局随員)

4. 目 的

加西市議会の議会改革では、情報公開、住民参加での全国評価は高いが、議会機能強化の評価が低いので、ランキングの高い市議会を視察し、その取り組みに学ぶ。

《議会改革度調査2014ランキング》 早稲田大学マニフェスト研究所

	総合順位	機能強化	住民参加	情報公開
可児市議会	12位	6位	29位	101位
亀山市議会	39位	88位	91位	38位
加西市議会	61位	200位	47位	82位

5. 視察内容(詳しくは別紙)

◇可児市議会(岐阜県)2月16日(火)13:00～15:00

(視察項目)「議会改革(議会の機能強化)について」

(視察対応者)伊藤 壽 副議長

川上文浩 議会改革特別委員長

山根一男 議会改革特別副委員長

吉田議会事務局長、熊澤主査

◇亀山市議会(三重県)2月17日(水)10:00～12:00

(視察項目)「議会改革(議会の機能強化)について」

(視察対応者)前田耕一 議長

服部孝規 議会改革推進会議検討部会長

渡邊議会事務局議事調査室長

6. 所 感 各委員の所感は別紙のとおり

可児市議会の取り組み (人口: 101,125人 議員定数 22人)

視察項目 議会改革 (議会の機能強化) について

取り組み内容

- ・議会の取組視点として、きづき、ひらめき、行動力、相互理解、実施、規定が大切である。
規定をしてこそ効力を発揮する。
- ・議会運営サイクルの規定
議長、委員会は年度毎に引き継ぎ事項を申し送る。これによって議会の継続性ができ、課題への取り組みが進展しやすくなる。
- ・予算決算審査サイクル
決算審査では、予算審査で説明された「重点事業」の「重点事業点検報告書」を活用して審査を行い、予算決算委員会の各分科会で「提言案」を検討し、市民意見も反映して全会一致の「提言」を市長に通知する。
予算審議では、「提言」を予算案の中いかに反映したか「提言反映結果報告」を受け審議する。
- ・政策提言・提案などの取組
 - ①委員会 (分科会) で自由討議を実施し、附帯決議や提言内容を決定し、本会議で採決または報告を行い、後日、執行部から対応結果の報告を受ける。
 - ・決算審査での予算編成への提言
 - ・子どものいじめ防止に関する条例制定
 - ②「空き家等の適正管理に関する条例」の制定 (H26.8)
市民からの要望に基づき所管委員会が2年をかけて調査研究を行ない議会提案した。
- ・ICTを活用した議会運営
 - ①無料のグループウェア (ビジネス用SNS) のサイボウズライブの導入。
委員会委員相互の意見交換ができ、インターネット上で資料確認や資料内容の改善を事前に行える。
 - ②議場にモニターを2か所設置。パソコン等を活用した一般質問が可能。
- ・20歳未満の若い世代との関わりの実践 (H20.2~)
 - ①高校生のキャリア教育を議会として支援
高校生といっしょに地域課題懇談会を実施し、その活動報告として高校生議会を行う。
地域課題として、「健康づくり」「子育て支援」「まちづくり」等をテーマにして、医師会、子育て事業者、金融協会等と意見交換を行う。
 - ②こうした取組によって、若い世代 (高校生) が可児市の魅力を知り、地域への愛着や当事者意識の醸成、広い視野や新しい経験、社会や学問のつながりの実感を得ている。
- ・議員の資質向上の取組
 - ①大学との連携 名城大学都市情報学部 昇秀樹教授ゼミに毎月参加して知見を深め、議会報告会にゼミ所属大学生 (10名程度) に参加してもらっている。
 - ②議員研修の充実
H26年には、2月、8月、11月に名古屋大学副総長、元廿日市副市長、秦野市職員を講師に招き研修。
近隣の市議会にも呼びかけ一緒に開催。
- ・議会報告会
春、秋の2回。意見交換では、議会だよりを活用し、グループ形式で報告及び意見交換をする。
最後に会場全体で意見交換結果を共有する。

亀山市議会の取り組み (人口：49,790人 議員定数18人)

視察項目 議会改革 (議会の機能強化) について

取り組み内容

・各常任委員会での「所管事務調査」の取り組み

各委員会で、調査・研究テーマを設定。

閉会中の委員会や行政視察、市民 (テーマに関連する関係、団体等) との意見交換会を行い、課題や問題点等を整理して「所管事務調査報告書」を作成し、本会議で委員長が報告をし、後日、議長から市長へ提言書を提出。(H22.12 から実行)

	テーマ	H26年	H27年
総務委員会		・「収納率向上対策」について	・「防災対策の充実・強化」について
教育民生委員会		・「まちづくり観光」について	・「学童保育所」について
産業建設委員会		・「下水道事業の公営企業会計」について	・「獣害対策」について

・議会改革推進会議

全議員で構成し、議会基本条例に伴う検討課題を決め、課題ごとにカルテを作成し、取り組む時期をリンク付けして、検討がなされている。

H25.5 検討課題 43

H28.2 完了した検討課題26、着手中9、未着手7

・広聴広報の取組

ケーブルTVにて「こんにちは 市議会です」の放送。(H23.9より)

定例会の内容を報告する議会報告番組で15分。1日18回、1週間放映。4定例会分で725,760円。番組の監修は、市議会広聴広報委員会が行い、番組制作はケーブルテレビ会社へ委託。

・政策検討部会の設置

重要な政策等への議論や議員提出議案、政策提言等を議論する場として全員協議会を活用し、その補助機関として政策検討部会を設置。(H27.5)

・議会報告会の検討

今はまだ議会報告会を開催していない。

委員会機能を強化して各常任委員会における「所管事務調査」活動としてテーマを掲げ、市民 (団体) との協議を行い、市長に政策提案を行っている。

議会としてある程度、力がついてから市民への議会報告会を行う予定。

【所感】 森元清蔵

可児市議会の取り組みについて

- ・議会で議論したことを最後には「規定」として形にしなから、その積み重ねが行なわれていてすばらしい。また、まとめる経験が政策提言につながっていくと思う。

議長は引き継ぎ事項を文書化し次の議長に送り、各常任委員会も次の課題を引き継ぎ事項としてまとめて、引き継がれている。

決算審議においては決算審査の後、委員会分科会で全会一致の提言案をまとめ、提言として市長に通知し、次年度の予算に活かしている。予算審議においては、提言がどのように予算に反映しているかも審議されている。

こうした議論の継続した取り組みは、取り入れていくべきだと思う。

- ・高校生と一緒に地域課題懇談会をされているのがすばらしい。

若い世代に地元に残ってもらうには、若者自身が地元の課題を知り、対策を考え行動することは必要なこと。18歳選挙権についても出前講座をはじめている。

可児市の取り組みに学んで、高校生への働きかけを検討する必要がある。

亀山市議会の取り組みについて

- ・議会基本条例に伴う検討課題を明確にしてカルテとして整理し、順次解決されている。

加西市議会も議会基本条例の検証で明らかになった課題について、亀山市のカルテを参考にして改善していく必要がある。

- ・委員会の所管事務調査の取り組みが充実している。

年間のテーマを決め、意見交換会の対象団体、視察先まで年度当初に決めて調査・研究がされている。その結果は、定例会で報告され、議長から市長に政策提言として出されている。委員会の活性化や政策提言に向けて、このような取り組みは大いに参考にしていきたい。

議会運営委員会視察報告書

井上 芳弘

平成28年2月16日、17日に議会改革について、岐阜県可児市、三重県亀山市の視察について報告いたします。

可児市(平成28年2月16日)

可児市議会の議会基本条例の制定は、平成24年12月議会で可決され、平成25年4月施行となっている。

議会改革については、平成15年9月に議会活性化特別委員会が設置され、平成19年8月廃止までの間、政務調査費使途基準の見直し、一問一答・対面方式の導入や費用弁償制度の廃止など具体的な改革とあわせて常任委員会の機能充実がはかられている。

平成20年8月には、議長交際費や政務調査費の公開など改革を進めつつ、平成21年2月に議会改革調査研究のPTを立ち上げて、基本条例検討のための研修会を集中的に実施している。

その後も随時、特別委員会の設置や調査研究が行われ、基本条例の制定までの約十年間改革の積み重ねと議会基本条例の必要性が議論されている。

① 政策提言について

常任委員会の意見交換会や議会報告会での市民の声を、委員会や分科会で討議を重ね、附帯決議や提言内容を決定し、本会議で採決、報告を行っている。

空き家等の適正管理に関する条例は、所管委員会が市民からの要望を受けて調査研究、提案したもので、平成26年8月の臨時議会で制定されている。

また予算・決算の審議等では重要事項説明シートや重要事業点検報告書を活用し、提言案の検討、全会一致案件の提言など議会審議に政策提言をしっかりと位置づけている。

② 専門的知見の活用について

条例制定時には、名城大学都市情報学部の昇秀樹教授に専門的知見のため依頼されており、制定後も地方自治や時事問題について、議会も昇ゼミに参加するなど意見交換が行われている。議会報告会にも昇教授ゼミの学生10名程度が教授と共に参加されていることも興味深い。

また名古屋大学副総長や他自治体副市長を招くなど、専門家による議員研修も年2回程度実施されている。

③ 議会報告会について

基本条例では毎年開催するとしており、5月頃と11月頃に実施されている。運営は副議長、常任委員会・議会運営委員会の委員長、広報特別委員会の正副委員長をメンバーとする議会報告会実施会議において運営されている。

報告会についての広報手段については、議会だよりや地域回覧板の他ケーブルテレビ、FM放送、フェイスブック、チラシ配布など積極的に行われている。参加者は一会場あたり25名～40名の参加であるが、女性や20代、40代の参加も少なくないことが特徴的である。名城大学との交流もあるが、広報媒体の多様性の効果とも考えられる。

可児市議会報告会の特徴は、報告、意見交換ともにグループ形式で行っていることであり、最後に会場全体で意見交換結果を共有することとしている。報告については議会だよりを活用しており、本市議会と同様であるが、班による報告、意見交換は議員各人の役割がさらに重要と思われる。

④ 議会運営サイクルについて

役職については一年交代制となっているが、議会課題や各委員会課題を明確にして、一年ごとに引き継ぎ・継承を行っている。任期4年目には次期提言として新議会にも引き継がれることになっている。

⑤ 地域懇談会について

常任委員会の活動として各種団体との意見交換も積極的に行われているが、高校生のキャリア教育支援や若い世代と議会の関わりからの視点から地域課題懇談会として高校生主体の講演会や高校生議会などが市議会も参加して開催されていることは他にない取り組みである。医師会が参加しての健康づくり、金融機関協力によるまちづくりの議論、子育て支援など内容は多彩で、高校生の積極的参加がすばらしく、27年度は3回開催されている。

亀山市(平成28年2月17日)

議会基本条例は、平成22年6月議会で可決され同年8月施行である。

亀山市議会でも、平成16年には対面方式や質疑での一問一答方式の採用、ケーブルテレビの行政チャンネルを活用しての一般質問の放映など議会改革が進められてきた。

加西市と同時期の基本条例制定となっているが、議会報告についての明確な規定はなく、「議会は、議員及び市民が自由に情報及び意見を交換することができる場を設置するものとする」との表記にとどまっている。また、継続的な改革の推進を目的として常設の議会改革推進会議を設置している。

① 議会改革推進会議

議会改革推進会議は全議員で構成されており、議会の在り方についての調査研究、条例の目的の達成についての検証をおこなっている。平成27年度は3回開催されており、政策検討会議(仮称)の設置や公聴会・参考人制度、議会の情報化などが検討されている。

② 議会改革推進会議検討部会

議会のあり方検討委員会(平成22・9)の答申に基づき、議会基本条例の検討課

題や委員会審査の課題などを協議するために設置されており、各会派から1名ずつ議員6名で構成されている。

基本条例の関係では各条項の課題など40数項目を検討課題として、継続して論議し、完了した検討課題、着手中・未着手の課題を明確にしながら、改革を進めている。

27年度では9回開催されており、うち議会報告会については7回議題となっている。

基本条例制定時、また制定直後のあり方検討特別委員会でも、すぐに議会報告会を開催するのではなく、委員会の所管事務調査機能を強化して、市民との意見交換・対話を重視するという2ステップ論が大勢をしめたとされているが、改革の積み重ねを土台にして、報告会の実施も遠くないと感じた。

③ 委員会「所管事務調査」について

委員会の活性化による政策提言を重視し、各常任委員会の調査・研究テーマを明確にして調査報告書をまとめ市長への提言に結び付ける努力がされている。時々の所管の課題を明確にして調査することは加西市議会にとっても重要である。

加西市議会改革の課題

加西市議会も議会基本条例を制定し6年目を終えようとしている。とりわけ、本年は議会報告会を特定団体への報告・意見交換に限定した。しかしながら、亀山市議会の説明で、議会報告会は市民全体にむけられてこそその報告会であり、常任委員会での意見交換と明確に区分していることが印象的であった。亀山市の基本条例に報告会が明記されるのも近いと感じた。

また、可児市でも委員会や地域懇談会で市民との多様な意見交換を行いながら、議会報告会を年2回しっかり実施されていることにも感服した。

開かれた議会の構築は市議会の重要な使命であり、不特定多数の市民に直接報告会を実施する意義は大きい。もちろん委員会、議会活動として各種団体との意見交換も重要であることはもちろんである。

また、亀山市の動画配信などをはじめ、積極的な情報媒体の活用は加西市においても喫緊の課題である

以上

行政視察報告書 可児市議会・亀山市議会 議会改革について

【感想】 議会改革の目的が両市共はっきり示されていない様に感じた。議会ばかりが先さきと進み、市民へ開かれた議会と言うものが少し無いのではと感じた。議会運営での議会改革は必須であると同時に市民の巻き込みをされている様に感じた。両市とも本会議での採決には均衡な採決になっており、全議員協議会又委員会での意見調整に時間をかけておられているが、結果的には均衡した採決になっているがために議会の動き、議員の発言を市民に広聴出来る仕組み作りをしている様に感じた。

少数の会派が多くあり、意見のまとまりが出来ていないのではないかと感じた。しかし高校生議会とかケーブルテレビの放送など、様々な取り組みには参考になった。又各委員会で行政に対して要望にテーマを決め市民への意見聴取、視察、執行者の意見、考えを聞き政策提言を行われ、実施しておられる事は参考にすべきと思いました。期間は出来るだけ短く半期に1件ぐらいが良いと思いました

これらのテーマを主に議会報告会意見懇談会に役立て、政策提言を出来る議会、委員会にしたい。 衣笠利則

議会運営委員会視察報告

1. 岐阜県可児市

1) ICTを有効活用した議会運営

議場にモニターを設置してパソコン等を活用した一般質問ができる。

2) 議会運営サイクル、予算決算審査サイクル確立

・役員任期は申し合わせで1年だが、改選後の議長や常任委員長は議長マニフェスト（議会課題）や委員会主要課題を設定して議会運営サイクルとして継続して取り組んでいる。

・予算決算審査サイクルは議員20人（議長・監査委員を除く）で構成し、重点事業点検報告書を活用して評価を行い、全会一致できた内容について市長へ提言を行っている。

3) 議会報告会

議会だよりを活用してグループ毎に実施している。来場者をグループに分けて議員が報告し、その後意見交換を行う。最後に会場全体で意見交換結果を共有できるように報告している。

<考察>

議会運営サイクル、予算決算審査サイクルや議会だよりを活用したグループ毎の議会報告会は参考にすべきで、活用には値すると思われる。

2. 三重県亀山市

1) 常任委員会の所管事務調査と政策提言

年間の所管事務調査スケジュールを作成している。閉会中の委員会では調査研究テーマについて現状把握や視察等を行い、9月議会閉会後に議長に所管事務調査報告書を提出。10月上旬に議長から市長に提言書を提出。

提言に反映されたものは市長から議会へ報告する。但し、提言が目的ではなく、研究を行うことを重要視している。

2) 広聴広報の取組み

ケーブルテレビが導入されており、市政と合わせて放送枠を確保している。「こんにちは！市議会です」で15分間の番組編集を委員会で行っているが、制作から配信までの事務量は相当多いと推察。また、ホームページも充実しており、職員6名プラス2名の合計8名で対応している。

<考察>

常任委員会の所管事務調査と政策提言は委員会活動の充実を図る面からも活用には値すると思われる。広聴広報の取組みについては充実しているが、亀山市を参考に充実させるには事務局員の増員が必要ではないかと考える。

土本 昌幸

【所感】長田謙一

2月16日(火) *岐阜県可児市

{議会改革(議会の機能強化)について

先ず行政視察の多いのに驚きました。26年4月から27年3月の1年間に49議会379名である。その内議会改革等の視察は半数以上である。議会改革は、平成15年9月にスタートしている。議会基本条例は平成23年9月30日議会基本条例特別委員会を設置し条例施行は、平成25年4月1日である。その他、ICTを活用した委員会運用の実施また、会議規則、申し合わせ等の見直し、運用基準の制定を実施している。また現在も随時見直しを行っている。その他基本条例に基づく議会報告会を年2回春(5月頃)、秋(11月頃)に実施している。議会の情報発信取り組み方も多種多様であり、議会だより、ケーブルテレビ、FMラジオ、ホームページ、ユーチューブ、グーグルカレンダー、議長フェイスブック等発信の方法が素晴らしと感じます。現在、加西市議会が取り組んでいる各種団体との懇談会も実施している。また、議員の資質向上を図る為に議員研修会もしている。加西市においても実施したい、高校生議会の地域担い手育成の取り組みは素晴らしと感じました。

2月17日(水) *三重県亀山市

{議会改革(議会の機能強化)について

- ・政策立案及び提案(政策検討会議)について
- ・常任委員会の所管事務調査と政策提言について
- ・市民団体との意見交換会について
- ・反問権について
- ・「こんにちは!市議会です」について

議会改革の取り組みについては、平成16年5月から平成22年6月まで議論し本定例会で議会基本条例に関する例規等の見直しを行い、議会基本条例を平成22年8月20日に施行する。また、議会基本条例に伴う検討課題を作成し現状分析、議論する内容、対応内容等に区別してカルテと言うシートを作成して議論している。予算決算常任委員会を設置している。特別委員会でないところが、加西市議会と異なる委員会でありこれも新鮮と感じた。広聴広報の取り組みについても、ケーブルテレビ(生放送)を中心に幅広く市民に市議会をアピールしている。議会報告会は議会としての力がついた段階で行うとして検討中であり、常任委員会が所管事務調査の中で市民と議会が話し合う場として意見交換を行っている。21年9月議会よりインターネットで録画配信をしており、26年9月議会からはライブ配信を行うとともに、スマホ・タブレットにも対応している。加西市議会においても、政策立案・提言が出来る議員、議会を目指していきたい。

視察所感 松尾幸宏

可児市

- 1、 市長と議員の二元代表制について、車の両輪というよりも、議会はアクセルとブレーキの役目をしなければならない。又、ただ単に執行者のチェック機能ではなく政策提言が出来なければ、市民からの信頼を得ることは出来ないという言葉が印象に残った。
- 2、 高校生を対象として、可児市の発展に寄与する人材を育成するために、高校生議会・地域課題懇談会を開催して「本気の大人として、高校生のヤル気スイッチを入れる」活動を展開されている。
加西市に於いても、北条高校活性化協議会の協力を得れば十分実現可能な事業である。
- 3 予算決算審査サイクルについて、予算説明に於いて重点事業説明シートを、決算説明に於いて重点事業点検報告書を活用しており、課題の明確化がされている。
- 4 議会報告会・地域懇談会等の意見反映については、常任委員会で提言案を検討し、最終の決算審査に於いて提言をまとめ、全会一致のものについては本会議で市長へ通知する。そして予算に提言が反映されているか、決算で提言対応結果についての報告を執行者より受けるPDCAが確立されている。

亀山市

- 1 議会活動について、議会だより、ケーブルテレビ、インターネットを通じて積極的に広報されている。議員自ら制作にかかわる部分も多く、特にホームページの充実には目を見張るものがあるが、関連業者への委託費、議会事務局の人件費等相当の費用が発生している。
- 2 議会改革について 43 項目の検討課題を抽出し、優先順位、検討内容を明記することにより改革推進状況が把握しやすくなっている。
又、検討課題カルテルを作成することにより、現状分析、議論する内容、対応内容を明確化している
- 3 予算決算委員会の審査フローについては、加西市議会も参考にすべき点が多い。
- 4 議会報告会については各種団体のみを対象とされている。
加西市議会に於いても、本年度から取り組んでいるが、政策提言に至るよう内容の充実に努めるべきである。

議会視察報告書

議運委員 森田博美

議会運営委員会で取り組んでいる議会改革、特に議会の機能強化について、先進的な議会を視察した内容を報告する。

①岐阜県可児市議会『議会の機能強化』

流暢な説明が70分以上、しかもプロジェクターを駆使して非常に分かりやすい内容であった。議会活性化特別委員会を設置（H15～H19）してから集中的に審議して活性化に向けて取り組み、議会基本条例調査研究プロジェクトチームを議長諮問により設置して、できることはすべてやりきってきたとの説明に驚いた。

議会と議員の情報発信力を高めることや議会の可視化を実現させて議場に大型モニターを設置してパソコン等を活用した一般質問をおこなっている。また、議会だよりのフルカラー化、ケーブルテレビとFMラジオの活用、議会ホームページの充実、ユーチューブとグーグルカレンダー、議会フェイスブックにより情報発信を工夫。予算決算審査は議会の責務を自覚し全議員で審議して、全会一致の意見については市長に提言として通知を繰り返して行っている。基本条例にある議員研修の充実強化の取り組みでは、毎年研修会を開催する外、地域の議長会主催の研修会に全員参加している。

現在の地方都市の悩みは、地域の担い手の大都市への流失と減少から地方は衰退しつつあり、若い世代特に高校生に地域への愛着や当事者意識の醸成、広い視野や新しい経験の獲得をめざして地域の魅力を知る場づくり、ふるさと発展に寄与する人材育成のために地域課題解決型キャリア教育に取り組んでいることはすばらしいと思う。H27年度でのべ400名以上の高校生が参加した実績、高校への出前講座等、大いに参考にしたい。

2回目の議会改革市民アンケート実施、分析途中で結果を公開される予定とのこと、改革の進捗度を確認する方針であること、若い世代と大人が関わり広聴する仕組みを条例化する方針等も参考になる。地方創生が叫ばれる中、地方議会がどうあるべきか、『消滅都市』が公表されるだけでどのような施策を展開すべきか助言がない、数千人の町でキャリア教育が定着して成果を出していることから先進地に学びながら地域活性化に向けた議会の責務を果たしていきたいと締めくくられたが、感動を覚える視察となった。議場も見学した。

②三重県亀山市議会『議会の機能強化』

基本条例に基づいて設置された議員全員で構成された『議会改革推進会議』とその補助機関として議員7名で構成する『検討部会』で絶えず改革が取り組まれている。

また、閉会中の所管事務調査を活用し、常任委員会ごとにテーマを設定して各種関係団体と意見交換会を開催して調査研究を実施している点は大いに参考になると思う。議会報告会や意見交換会を個別に開催している方法を常任委員会に細分化して定着させることが市民との関係進化につながるとも考える。

重要な政策等への議論や議員提出議案、政策提言等を議論する場として全員（議員）協議会を活用すること、その補助機関として政策検討部会が設置されていることや、協議事項の見直しと議員協議会の活用も参考になった。

検討課題一覧の取りまとめとチェック、議会基本条例の検討課題カルテ等、多くの資料をいただいたが、どれも参考になるものばかりで、今後の改革に生かしていきたい。

岐阜県可児市

○議会改革（議会の機能強化）について

- * 予算決算審査において予算決算審査サイクルを確立し審査内容を明確に表示されている、その中で予算説明では重点事業説明シート、決算では重点事業点検報告書をそれぞれ活用し項目内容をある程度絞った形で進められている又、決算審査で提言をまとめ、それを市長へ通知している又、予算審査では、その提言が予算に反映されているかどうか結果報告も受けている、こうしたサイクルを行うことによって議会からの提言事項の反映がより明確になると思うので、加西でも見習うべき点はあると思う。
- * 条例提案においては、市民からの要望に基づき所管委員会が調査研究を行いこれまでに二つの条例案を提案し制定されていることにおいては、素晴らしいと思う。
- * 議会報告会では、議会だよりを活用しながら報告及び意見交換ともにグループ形式で進行され最後に会場全体でその結果を共有する形で会の運営をされている。こういった形にすれば、より多くの意見が出てくると思うので、ぜひ試してみたい。
- * 地域コミュニティ再生に向けた取り組みで、地域課題解決型キャリア教育なるものへ取り組み、若い世代特に高校生を巻き込んで高校生議会の開催、地域課題懇談会の開催、また高校生と議員を含む様々な団体との意見交換の開催、それから18歳選挙権開始に伴う高校生による模擬選挙の開催など議会からの働きかけあるいは、議会が動くなど議会が積極的に行動を起こしていかれていることに対し感服いたしました。

三重県亀山市

○議会改革（議会の機能強化）について

* 各常任委員会における「所管事務調査」について

各委員会で取り組む調査研究テーマの抽出決定以降研究テーマについての現状把握及び類似団体等との調査意見交換会など勉強会も実施され課題、問題点の整理、調査報告書のまとめ、そして議長へ所管事務調査の報告書の提出、議長からは、市長へ提言書の提出を行い、予算に反映されたものは、市長から議会へ報告するといった一連の取り組みは、委員会活動の機能が十分に生かされたものになっていると思います。

* ケーブルテレビによる議会中継

広報広聴委員会の運営の中で市内全域に流れているケーブルテレビを活用し「こんにちは市議会です」と題し15分番組の編集、制作等も担当され放映されている。

このケーブルテレビは、市民の方の70%以上の方が見るということで大変な宣伝効果があり市民向けの広報活動としては大きな役割を果たしていると思います。